

(3) 騒 音

環境騒音に係る環境保全水準は次のとおりとする。

A A 地域（療養施設などが集合して設置される地域など特に静穏を要する地域） 昼夜等価

騒音レベル（以下「Ldn」という。） 50 dB (A)以下。

A 地域（主として住居の用に供される地域） Ldn 55 dB (A)以下。

B 地域（相当数の住居と併せて商業、工業などの用に供される地域） Ldn 65 dB (A)以下。

C 地域（A A 地域，A 地域，B 地域以外の地域） Ldn 55 dB (A)以下。

ただし，A 地域，B 地域，C 地域の各地域のうち道路に面する地域については，現行の環境基準値を基礎として設定したLdnの値をもって環境保全水準とする。

特殊騒音としての航空機騒音及び新幹線鉄道騒音については，それぞれに係る地域類型ごとに定められている現行の環境基準値をもって環境保全水準とする。

(4) 地盤沈下

地盤沈下のみられる地域 地盤沈下の進行を抑止もしくは防止することをもって環境保全水準とする。

地盤沈下の恐れのある地域 地盤沈下の発生を未然に防止することをもって環境保全水準とする。

2. 自然環境質

都市的形態を有し，もしくは有することとなる一定地域において，周辺自然環境質の賦存状態と当該地域における都市機能の充実度の関連などから得られた値をグリーンミニマムとし，これをもって環境保全水準とする。

第 2 節 環 境 容 量

前節に掲げた環境保全水準を維持するために許容される限度量をもって環境容量とするものであるが，現状の科学的知見ではすべての対象項目について定量的に容量を設定することは困難なので本計画においては次のとおり環境容量を設定した。

1. 環 境 質

(1) 大 気 質